

令和4年度第2回生駒市環境マネジメントシステム推進会議

【議事要旨】

日時:令和5年3月31日(金) 14:00~15:30

場所:生駒市コミュニティセンター203・204 会議室

1. 配布資料

- ・ 資料1:取組状況調査まとめ
- ・ 資料2:各課ヒアリング内容
- ・ 資料3:エコオフィス取組状況調査結果
- ・ 資料4:R4 評価シート

2. 出席者

区分	氏名
会長	矢田 千鶴子
副会長	落合 史生
委員	山口 昭夫
委員	松本 昌康
委員	梶邑 龍二
事務局	SDGs推進課長 金子 雅文 SDGs推進課課長補佐 木口 昌幸 SDGs推進課主幹 加納 明 SDGs推進課低炭素まちづくり推進係員 綿部 里菜

3. 議事録

1. 開会	
2. あいさつ	
3. 資料確認	
4. 案件	
(1)各所属ヒアリング内容についての監査	
事務局	資料1~4について説明。
松本委員	資料1は誰が評価して記入したものか。
事務局	各所属が各自評価したものである。
松本委員	各自で目標設定して各自で評価するのか。前回の会議でも申し上げたが、数値目標の記載がない所属が多い。また前年度と同じ目標を記載している所属もある。どういう認識なのか。目標や取組は毎年度更新せず継続していればよいということか。
事務局	毎年度やることの変化する事業もあれば、毎年度継続的に取組む事業もある。ベースは同じ取組で、状況に応じて取組を更新するという所属が多い傾向にある。
松本委員	継続がすべてという印象で、進歩があるのか。数値目標があつて、それに対して評価するのであれば評価できるが、この資料では評価はできない。例えば、1-1-1④で「環境教

	育等の緑の大切さを啓発した」とあるが、具体的にどのような啓発なのか。気持ちを高めるとは具体的にどのような手法で高めるのか。そういったことが一切書かれていないので、実際にどのように取組をされているのかを私たちでは評価できない。
--	--

松本委員	また資料2について、担当課はいくつあるのか。
事務局	20ほどである。
松本委員	20ある中で5つしかピックアップしなかったのか。前年度と同じ所属を選んでいるようだが、ピックアップした基準は何なのか。
事務局	すべての所属に対してヒアリングするのは時間がかかるため、5つに絞った。昨年の会議で監査対象とした部署に対して、次年度はこのようにしていただきたい等のご意見をいただいたので、今回も対象として選定した。
松本委員	今後もこのように所属を絞ってヒアリングするのか。
事務局	本来は、昨年いただいたご意見に加えて、現状でこの所属が気になる等の意見を事前にお聞きして反映させるべきであり、次回以降はそうさせていただく。

松本委員	資料2について、SDGs 推進課の取組内容で、いこま市民パワーという記載が多々ある。実施はいこま市民パワーなのに SDGs 推進課の取組として記載されているが、いこま市民パワーは SDGs 推進課の下部組織なのか。
事務局	別組織である。株式会社として会社事業をしている。
松本委員	そうであれば SDGs 推進課の取組ではないのではないか。
事務局	生駒市が出資比率51%の株式を持っており、政策目的や事業目的も同じであり、生駒市としてはいこま市民パワーを通じて地域の脱炭素化やエネルギーの地産地消を進めていきたいと考えている。その意味合いで、環境モデル都市アクションプラン等の市の基本計画の中にもいこま市民パワーを位置づけて進めているというのが現状である。いこま市民パワーと連携して取組を進めていくという趣旨で記載しているのご理解いただけたらと思う。
山口委員	いこま市民パワーに株式を51%持っていることはわかるが、SDG 推進課が主導しているというような記載があると違和感を持つ人もいると思う。
矢田会長	いこま市民パワーの記載については誤解を招くこともあるので、資料の文言については改定していただきたい。
事務局	改めて資料1を見ると、所属によって書き方が異なり、統一性がないと感じる。事業ベースで細かくしっかり書いている所属もあれば、おおまかに書いている所属もある。松本委員がおっしゃったように、細かい取組・事業ベースで書いてもらうように統一していく必要がある。

松本委員	資料3について、職員の意識が非常に低いと感じた。このアンケート調査は任意のもの
------	---

	なのか、それとも業務として提出すべきものなのか。任意であれば回答率45%でもよいが、業務上提出しなければならないのであれば回答率 45%なのは甚だおかしい。
事務局	回答は任意である。回答率をあげるために、締切間近になれば回答をお願いするアナウンスを行ったり、施設や学校に対して催促を行ったりはしている。
松本委員	回答していない55%の職員は関心がないということか。マネジメントシステムが良好に運用されているとおっしゃっていたが、全く違う。全体で見ると55%の方は関心を持っていないということか。
矢田会長	昨年よりは13%上がったが、それをどう評価するかである。13%上がる努力をされたと評価するのか、努力はされたけれど 50%にも到達していないと評価するのか。
松本委員	当初やり始める時は皆真剣に行うが、継続ができていないように感じる。
事務局	各所属への協力要請は引き続き行っていく必要があると考えている。ただ去年の資料と見比べていても設問20や21等に今年度はボリューム感のある回答をしていただいている方もいる。
松本委員	回答している方は意識が高いだろう。回答していない55%の方々の意識の低さについて申し上げている。設問20や21についても、文章で羅列されているだけでどこの部署からの回答なのかわからない。内容を見ると保育園や幼稚園、小中学校の回答かと思うが、これをもってどのように評価すればよいのかわからない。
矢田会長	庁内・教育部門・出先機関で回答を分けてはどうか。そうすることで庁内の傾向や教育機関の傾向などが分かる。また、子どもたちが取り組んでいることと、職員が取り組んでいることを混在して書いているので、職員自身がどのようなことを行っているかをメインに書いてもらうべきである。個人を追求する調査ではないことは前提であるが、部署ごとの傾向をつかむことができる形にしていきたい。
落合副会長	前々回のときは委員が部署ごとにヒアリングに行っていた。今回紙の資料のみであり、これだけ見て判断はやはり難しい。
矢田会長	2022年度まではコロナウイルスの影響が大きかったが、2023年度以降は従来の監査方法に戻す方向で検討していただきたい。今回は事務局が選定してヒアリングしているが、やはりここはヒアリングすべきだということは監査したいので、検討してほしい。

梶邑委員	Okippa について、いこま市民パワーの契約者のみに助成としているが、契約者がまだ少ないので、対象者を契約者に限定せず広げることにはできないのか。
事務局	いこま市民パワーもまだ十分に営業を展開できていない部分もある。宅配業者からも再配達を減らすために置き配バッグの普及を進めていきたいという声もいただいているので、連携しながら進めていきたいと考えている。
落合副会長	取組状況について、数値を書いていない部署が多い。
事務局	すべてが数値で書けるものではないが、数値を出せるところには極力書いていただくよう依頼していきたい。

矢田会長	AB 評価であれば継続でよいが、CD 評価であればどのように改善するのかを書けるはず。ほかにも、2ページの里山整備活動への支援について、件数を明確に書くなどではできると思う。
落合副会長	資料2のワーケーションの受入件数はどのくらいだったのか。この間テレビで、スペイン村でバーチャルで宣伝する Vtuber によって観光客が倍増したという話を見た。生駒市でも、ストーリー性のある新しいことを取組んでほしい。
梶邑委員	観光の件について、年配者にはわからないこともたくさんあるので、Z 世代の若い意見を積極的に取り入れてほしい。

落合副会長	市民向けアプリとは具体的にどのようなものか。
事務局	平成30年に NTT ドコモと協定を結んで電気料金を見える化するアプリ導入を検討していた。コスト等の問題で実現はできなかったが、引き続き検討は続けている。
落合副会長	スマートシティ推進室の方にも話したが、アプリは作るだけで終わりではなく、普及させる努力をしなければならない。

矢田会長	資料作成は最短でどのくらいのスケジュールでできるのか。
事務局	電気やガス等の光熱水費のデータの取りまとめが少なくとも6月いっぱいくらいはかかる。それと並行して、前年度の取組状況を各所属に調査をかけて、職員対象のアンケートも実施して、7月中にマネジメントシステム運用方針の案を作成できたら、年度の前半で1回目の会議が開催できると思う。そこから数か月後に今日のような場を設けさせていただくというのが一番理想的かと思う。
松本委員	次年度の取組計画はいつの時点で書かれるのか。
事務局	各所属にかかる調査の項目に入っているものなので、5月や6月には書いていただいている。
松本委員	この会議の進め方を考えていく必要がある。現状のやり方については疑問に思うことが多々ある。
事務局	今年度は時期的に遅くなってしまったことは大変申し訳ない。おっしゃることは承知しているので、来年度以降は当然にスケジュールを前倒してやっていく。
松本委員	この会議自体の目的は何なのか。職員は奮闘されているとは思いますが、我々も真剣に取組もうと思っているので、それができるようにしていただかなければ。ただ○×△をつけるだけであれば簡単であるが、そうではないと思うので。
事務局	エコオフィスの取組状況に対してご意見をいただくことや、環境基本計画などに基づく取組の進捗を見ていただいて、良い点と悪い点についてコメントをいただけたらと思っている。
落合副会長	年度当初に委員に委嘱されたら、まずはすぐに集まって、目的とやるべきことを話し合うべきである。

矢田会長	当初はエコオフィスが中心だったが、環境モデル都市アクションプランや SDGs未来都市計画などが策定されたことでやることも増加している。にも関わらず委員の数は減っている。スケジュールの前倒しはもちろん、コロナウイルス以前のようなヒアリング方法に戻していただきたい。現場に行ってヒアリングすることでわかることも多いと思う。
山口委員	生駒市は今なにに重点を置きたいのかが見えにくい。複合型コミュニティについても、120ある自治会の中で6～7に増えてもわずかな数である。生駒市としては今年はこれとこれに絞って重点課題とすると示してもらえればわかりやすい。
事務局	会議の進め方等については、会長と協議していきたい。スケジュールも前倒ししてやっていく。
5. 閉 会	

以 上